

大学コンソーシアム岡山  
第31回運営委員会 議事要旨

1. 日 時：平成26年4月25日（金）13時40分～15時40分
2. 場 所：ノートルダム清心女子大学 ノートルダムホール中央棟8階第1会議室
3. 出席者：末頁のとおり

**【議 事】**

会議に先立ち、高木会長（ノートルダム清心女子大学長）からご挨拶があった。

続いて、堂田運営委員長（岡山理科大学 教授）から配布資料の説明があり、柴氏（株式会社ナック 代表取締役社長）より別添に基づき、「NEW EDUCATIONEXPO 2014」の開催についてご案内があった。

次に、真田氏（岡山県土木部都市局）より岡山県後楽園キャンパスメンバーズ制度についてご案内があった。

**【審議事項】**

1. 平成26年度委員の確認について

出席者一覧に基づき出席者による自己紹介が行われた。次に、第30回運営委員会議事要旨（案）の確認がなされ、内容について修正等があれば後日大学コンソーシアム岡山事務局（以下「事務局」とする）に連絡いただくことで了承された。

2. 委員長、副委員長の選出について

堂田運営委員長から平成26年度運営委員長の選出について確認がなされた。加藤委員（ノートルダム清心女子大学 教授）に推薦がなされ、了承された。

ついでには、加藤委員が新運営委員長に就任し、議長の交代が行われた。続いて、運営副委員長として岡山理科大学の堂田教授が推薦され了承された。もう一名運営副委員長として、原運営副委員長（岡山経済同友会 教育問題委員長）に再任いただくことが了承された。

3. 将来構想委員会の設置について

木村事務局顧問より資料1に基づき、将来構想委員会の設置について次の説明があった。

- ・岡山オルガノンの構築事業をどのような形でコンソーシアムに継承するのか将来構想委員会で検討した。3年間は継続することとなり、現在3年目を迎えている。システムの陳腐化が懸念されている時期でもあり、費用負担、コンソーシアムの本来の設置目的や事業の見直し等について実情との関係を再確認、精査し、今後の展開について議論を進めていただきたい。
- ・全体の方向性について、将来構想委員会で検討し、運営委員会や代表者会議でご審議いただきたい。
- ・現在、コンソーシアム事業と継承事業を2本立てで運用している。岡山オルガノンの構築には1大学が参加していないため、どのように事業を統合して運用するか検討課題である。

- ・賛助会員について、当初コンソーシアムは産学官の連携により設立されたので、各市町村や専門学校に加入いただくことが妥当か検討してはどうか。
- ・これまでは会長校が事務局を引き受けていたが、事務局を固定化した運営について再検討すべきではないか。
- ・県南の近隣の大学から8名程度の将来構想委員会を5月下旬頃までに選出し、岡山オルガノンの構築継承事業の見直し、財政の再構築、新規会員、各事業部リーダーの組織構成等について検討を進め、今年度9月に開催する代表者会議で報告できるようにしたい。

よって、加藤運営委員長より将来構想委員会を設置することの確認がなされ、了承された。続いて、将来構想委員会の構成大学について以下の意見があり、岡山大学、岡山県立大学、岡山商科大学、岡山理科大学、川崎医科大学、就実大学、山陽学園大学、ノートルダム清心女子大学、事務局、岡山経済同友会から1名ずつ委員を選出することで了承された。

- ・（加藤運営委員長）会長校を担った大学や会長校予定大学、岡山県との関連大学、地域貢献事業に関わっている地域貢献委員長が所属する大学等を考慮する。
- ・（大崎委員）川崎医科大学は単科で特殊な医療系大学であるので、構成メンバーとしてご参加、ご協力いただきたい。また経済界とリンクしていくことを踏まえ、岡山経済同友会にもご参加いただきたい。

木村事務局顧問より、第1回将来構想委員会を5月下旬に開催するにあたり、事務局から構成委員の選出をご依頼するので、5月上旬頃委員を確定いただきたい旨の説明があった。

#### 4. 岡山県との包括連携協定の締結について

加藤運営委員長より資料2に基づき、岡山県との包括連携協定の実施について説明があった。

堂田運営副委員長より、包括連携協定の具体的実施内容について継続審議していく必要があるので実施案を作成し提示することの提案があった。

加藤委員（くらしき作陽大学 教授）より、協定の締結を提案したコンソーシアムが各大学の担当部署等を明確にした上で、加盟校にとってのメリットや具体的な実施内容をまず検討しないといけないとの意見があった。

澁谷委員より、次の意見があった。

- ・協定の締結における加盟校の負担や懸念を踏まえ、コンソーシアム事業の実績を柱とし提示することで、岡山県の要望事項とマッチングさせていってはどうか。
- ・コンソーシアムの企画会議で、どの担当部署や委員会が実施できるか可能性等を検討してはどうか。

## 【報告事項】

### 1. 平成26年度事業計画について

加藤運営委員長より資料3に基づき、平成26年度事業計画について報告があった。

続いて、木村事務局顧問より資料3-8～3-13に基づき次の説明があり、了承された。

- ・岡山オルガノンの構築事業の継承において、3年間は2本立ての会計とすることで運用しており、今年度が最終年度となる。
- ・会費の前年度繰越金には、インターンシップ事業が岡山県中小企業団体中央会から将来的に移管される時の対策として160万円（2年間）が含まれている。
- ・事務局運営における便宜上、今年度も岡山理科大学に事務局を設置し、従来の地代家賃のみで利用させていただくことを岡山理科大学が快諾し、ご提供くださっている。
- ・事業費については、最終的に3年間の繰越金が0円になるよう努めていく。

### 2. 平成26年度各種委員会委員（委員名簿）について

加藤運営委員長より資料4に基づき、各種委員会委員について説明があり、了承された。

木村事務局顧問より、昨年度の代表者会議で、今年度コンソーシアム副会長と会計幹事の再任についてご依頼することを失念していたが、留任いただくことを各方に了承いただいた旨の報告とお詫びがあった。

### 3. 平成25年度収支決算報告について

木村事務局顧問より資料5に基づき説明がなされた。平成26年2月28日に開催された代表者会議で内諾を得た決算報告に従って、ほぼ予定通り執行された旨の報告があった。本内容にて来月5月に2大学の幹事による会計監査を行うことが了承された。

### 4. 各事業部委員会実施報告について

#### （1）大学教育事業部

##### ①平成26年度単位互換開講科目一覧

木村事務局顧問より別添のパフレットに基づき、平成26年度単位互換授業履修科目について説明があり、了承された。コーディネート科目「ちゅうぎん金融知力講座」については、中国銀行行員等が講師となり専門的な授業を行うので、各大学で多くの学生が履修するよう案内いただきたい。

#### （2）社会人教育事業部

##### ①平成26年度前期吉備創生カレッジ実施状況

大槻社会人教育委員長より資料6に基づき、平成26年度前期吉備創生カレッジ実施状況について次の説明があり、了承された。

- ・1科目につき平均13人が受講している。歴史や社会系の科目は履修者が多い。
- ・履修者数を増やすことのみを目的とするのではなく、大学が持っている学問の多様性を提示できるような科目設定をしている。

- ・「SD 特別講座」について、平成26年度も大学教育事業部「障がい学生支援委員会」と共催で一般の方は参加対象としない形式で開催する旨の報告がなされた。

### (3) 産学官連携事業部

#### ① インターンシップ事業

木村事務局顧問より資料7に基づき、岡山県中小企業団体中央会が実施する「平成26年度地域中小企業の人材確保・定着支援事業」インターンシップ事業の取り組みと、島根大学を幹事校としたインターンシップ等の取組拡大申請(テーマB)におけるコンソーシアムの支援について報告があった。中小企業団体中央会が実施する学生・教職員参加型の企業見学バスツアーについては、各大学で学生の積極的な参加をお願いしたい。

堂田運営副委員長より、次の補足説明があった。先週出席した本事業の第1回実行委員会によると、岡山県中小企業団体中央会が運用しているインターンシップ事業は、来年度補助金をいただけるか未定であるとの説明があったので、コンソーシアムがインターンシップ積立金を使用して事業を担うようになるかもしれないことを考慮いただきたい。

#### ② 平成26年度「日ようび子ども大学」

澁谷委員(山陽学園大学 教授)より資料8に基づき、今年度も岡山県生涯学習センターで「日ようび子ども大学」を開催する旨の報告があった。子どもに分かりやすいような形で地域貢献と大学研究活動を行うことを趣旨としている。各大学でのPRと出展大学の地域へのご支援をお願いしたい。

大崎委員(岡山商科大学副学長)より、次の提案があった。昨年度日ようび子ども大学の当日は、岡山商科大学バスで学生スタッフを運行した。来年度も大学バスの提供に協力するが、自学のバスを使用することを希望する大学があればご検討いただきたい。

#### ③ 平成26年度「エコナイト」

澁谷委員より資料9に基づき、各大学では省エネ活動等にご協力いただき、岡山駅東口広場では参加大学が連携して7月6日に学生主体でエコ啓発活動を実施する旨の報告があった。

#### ④ 平成26年度「東日本大震災復興支援ボランティア」

黒住委員(岡山経済同友会 教育問題副委員長)より、今年度も岡山経済同友会が東日本大震災復興支援ボランティア活動を8月下旬に実施するので、ボランティア参加学生の募集協力についてご依頼があった。

### 5. 双方向オムニバス授業の配信について

木村事務局顧問より資料10に基づき、次の説明があった。

- ・「岡山オルガノンの構築」補助事業における最終年度の実施報告の時に、テレビ会議システムを使用した遠隔授業の実施効率に関して文科省から質問があった。大崎委員のご尽力

により、当事業は実質2年程度の実績であるのでさらなる進展を目指してオムニバス形式の新しい双方向ライブ型オムニバス授業を作ることを提案されたので、昨年度の課題として検討を進めてきた。

- ・単位互換科目ではないが、今回は岡山商科大学、岡山理科大学、山陽学園大学、中国学園大学の4大学の共同授業として、ボランティア活動の在り方や地域貢献活動のさらなる活性化を目的として、4大学の学生に参加してもらいアクティブラーニングに近いオムニバス授業の展開について提案している。
- ・テレビ会議システムを使用して共通の時間帯に配信し、外部講師による情報提供や学生による発表、教員を加えたディスカッションを行うことを計画している。

#### 6. 出張報告およびイベント開催の報告について

加藤運営委員長より資料11に基づき、平成26年度における出張報告およびイベントの開催について報告があった。

黒住委員より、今秋のESD活動について、県内の学生には、ボランティア活動、外国人との交流や情報交換等を通して何か関わりを持ってもらえたらとのご意見があった。

以 上